

Q1 熱処理加工にはどのような効果があるのですか？

A 金属材料を加熱・冷却することで、形を変えることなく、強さや硬さ、粘りなどの性質を向上させます。自動車部品の場合は、強さを増すために熱処理加工を行います。

Q2 設備を導入したことで変わったことは？

A お客様の信頼を得られたことが大きいですね。おかげさまで新たなお客様からの引き合いもありますし、今までなかった仕事を受注でき、現場も活気づきました。

Q3 今後の展望は？

A 今後はさらなる部品の軽量化が求められてくるでしょう。これまで培ってきた確かな技術で時代のニーズに応えとともに、農機具や産業機械、航空機など新分野にチャレンジしていきたいですね。

〈取締役工場長〉
石松 誉至
いしまつ たかし
〔座右の銘〕
愛と光りと忍耐



「新 たな設備の導入により、顧客のニーズに応えることができるようになりました。九州管内にはアルミの熱処理を行っている企業は数社しかなく、軽量化ニーズは今後も高まるでしょう。これを大きなビジネスチャンスと捉えて積極的に営業展開を行っていきますね」

が、ここにも大型の人工時効炉を導入したことで、120日かかっていた全行程を24日までに短縮することができました」



Case 12 金属熱処理 株式会社 ヒーテック

〒889-1403 宮崎県児湯郡新富町大字上富田字井ノ前2370
TEL 0983-33-5313



より早く、より多くのお客様の声に応えたい

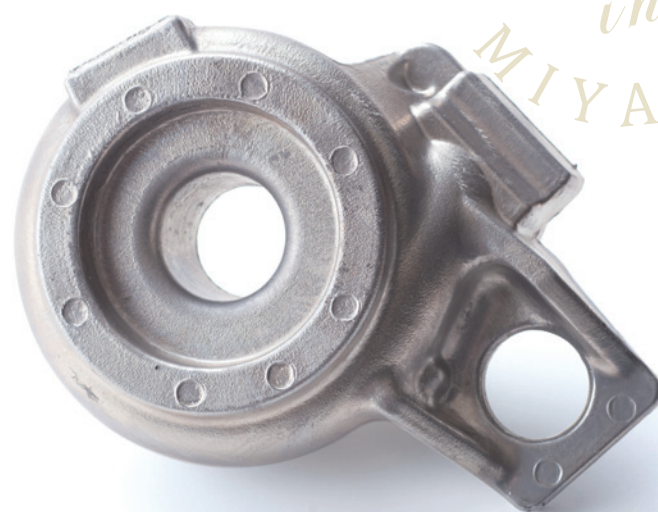
ヒーテックが主に熱処理加工を手掛けている自動車部品。強度が求められる部品のほとんどは鉄鋼でできており、既存の設備で対応することが可能でした。

ところが、近年、自動車に軽量化や高級感が求められるようになると、外観部品などの多くにアルミ合金が使われるようになり、既存の設備では、熱処理となると、既存の設備では、納期的にもコスト的にも対応することができませんでした。

「アルミ合金を機能部品として使用する場合、鉄鋼と同様に熱処理加工を行って強度を増す必要があります。」

ただ、アルミ合金は鉄鋼材料と比べて熱処理にかかる時間がとても長く、お客様が必要とする1か月分の部品を加工するのに、既存の設備では110〜120日も必要でした。これではとてもお客様の要求を満たすことはできません」

そこで新たに溶体化炉を一機導入。既存の

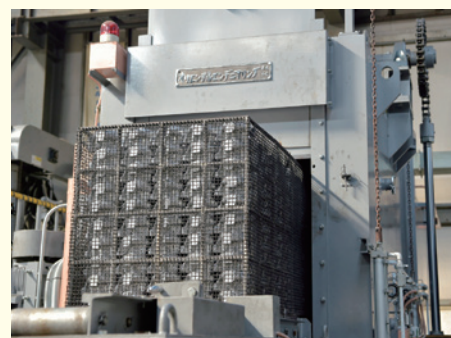


株式会社 ヒーテック

熱処理加工技術で軽量化ニーズに応える

自動車部品を中心に金属熱処理加工を行うヒーテック。これまでは鉄鋼材料の加工がほとんどでしたが、近年、部品の軽量化が求められるのに伴い、軽くて強いアルミ合金の加工が増えてきました。

ものづくり補助金活用 ここがポイント



より多くの材料を処理できる 大型溶体化炉

新しい人工時効炉と合わせて処理能力がこれまでの5倍になったことで、1か月以内に納品という、お客様のニーズに応えられるようになりました。

溶体化炉と並列で運転を始めた。

「溶体化炉では、アルミ合金を400〜500℃で一定時間保持することで金属組織を均一化します。その後、水で急激に冷却し、金属組織を固定させることで強度を高めます。この処理には、これまで43日かかっていたのですが、新たな溶体化炉のおかげで12日に短縮できました。」

溶体化炉で処理した後は、さらに強さを高めるために時効という処理を行うのです

合わせて導入した人工時効炉。既設の人工時効炉の6倍の処理能力があります。

